

世話人所感 No.3 (2018年10月秋日和)

世話人所感第3弾です。今回は世話人会報告ではなく、第5回勉強会を終えての雑感です。しばし、お付き合いください。

『 変えるべき、注目すべきは何? 』

9月23日(日)に看護未来塾の第5回勉強会が開催されました。看護未来塾ではこれまでも看護が直面している様々なテーマを勉強会で取り上げ、講演、シンポジウム、課題別小グループ討議など様々な形で取り組んで参りました。

第5回の今回は、これまでとは趣向を変え、「朝まではやらないけど、生討論会!」と銘打ち、1テーマ90分間で2テーマ(1. 引き続き、認定看護師制度を考えよう、2. 診療報酬からの挑戦ー看護政策をどう提言できるかー)で、指定発言者のプレゼンを皮切りに合計丸々3時間、たっぷり意見交換を行いました。ご参加いただいた皆様にあらためて感謝申し上げます。

今回の2つのテーマはいずれも我が国の医療・看護を取り巻く制度を取り上げたものでしたが、両テーマに共通したことは、制度の中身やあり方を論じる意見と制度それ自体の意味・是非を問う意見が交錯したことです。議論の焦点化という意味ではどちらかに絞ったほうが良いのかもしれませんが、いずれの視点も重要でありなかなか難しい。

話は変わりますが、自動車運転でのアクセルとブレーキの踏み間違えによる事故(特に高齢者)が取り沙汰され、自動ブレーキの義務化や高齢者の免許返納などが注目されています。しかし、小説家(元名古屋大工学部准教授)の森博嗣氏によると、踏み間違えは不注意や加齢の問題だけではなく、車の構造上の問題が極めて大きいと言います。氏いわく、『航空機はもとより新幹線をはじめとした電車、船舶などのほとんどが重要な操作を手で行っているのに比し、自動車は大事な操作(アクセル・ブレーキ)を足に頼っている。これはパワーステアリングのない時代に4輪車を操るにはかなりの腕力を必要としたことと頻繁のギアチェンジ(クラッチ踏込操作あり)のため足を使わざるを得なかった。しかしオートマチック車の普及でハンドルは軽くギアチェンジの頻度も極端に減少した現在、相変わらずそれも右足1本でアクセルもブレーキも操作するというのは安全対策上どうなのか、運転の構造を根本的に見直す必要がある』と言うのです。さらに車をバックさせる時は無理な姿勢で振り向きながら片手運転するのではなく(バックモニターの登場は革命的でしたが)、ハンドルをスポッと抜いて座席を反転移動させ、リアウインドウ側に差し込ん

で運転できるようにすれば良いと。問題解決に向けた発想が斬新すぎて若干めまいがするほどです。

ある問題をめぐり解決策を探るなら、問題そのもとそれを生み出している制度に踏み混むのはもちろんのこと、さらには思いもよらない当たり前、大前提と思っている大枠や概念にこそ目を向け大胆な改革をする必要があるのかもしれない。認定看護師制度も診療報酬制度も決して制度ありきではないと。ただ現実を顧みると、既成の枠組みを変えるための気づきと共に、変革のための十分な知恵と方略や体制作りが足りていないのも事実です。さらにヒアリングやパブリックコメント、タウンミーティングなどに思いを込めて参加しても、それが反映されたと感じられないことも無力感にも繋がっています。

しかし、制度は人が作り人が運営していくものです。意見交換や討論は変革のための大事な一歩と位置づけ、看護未来塾はこれからも活動を進めて参ります。

人が人をケアする看護だからこそ、当たり前がありすぎて見過ごしているもの、逆転の発想が必要なものが実はたくさんあるのではないかと、そんな感想をもった勉強会でした。

今回の勉強会は 2019年3月9日(土) です。内容は決まり次第ホームページに掲載いたしますが、日程の確保をお願いいたします。常連の方も看護未来塾未経験の方も等しくお待ちしております。

(世話人番号4番 井上智子)

余談かつ白状すると、40年余りの運転歴でブレーキとアクセルの踏み間違え数回はいずれも明確に覚えており、年齢にはあまり関係がないように思います(私の場合)。そして、一度もその体験がないという運転者がいるなら心底尊敬する次第です。